

30pmS-032

薬剤師と介護士のタバコに関する調査

○田中 三栄子¹, 川嶋 恵子², 小本 建博¹, 設楽 拓哉¹, 小松 健一¹(¹北海道薬大, ²北海道工業大学)

【目的】健康日本 21 や健康増進法では、「保健医療従事者や教育関係者は、国民に対する範として、自ら禁煙に努める。」とある。日本薬剤師会は、「薬剤師の禁煙を徹底します。」と禁煙宣言をしているが、果たして国民の健康を守る保健医療従事者の禁煙は徹底されているのかをアンケート調査を行って検証した。

【方法】2013年10月1日～10月31日、北海道の薬剤師173名（病院18件、調剤薬局24件）と、介護士119名（老人介護福祉施設10件）を対象に喫煙に関するアンケート調査を実施した。調査方法は、留置き調査法・無記名式で実施した。対象の基本属性は、性別では男性114名（薬剤師76名、介護士38名）、女性178名（薬剤師97名、介護士81名）であった。なお、回収率は77.9%であった。

【結果・考察】薬剤師の喫煙率は未だ0%ではないが1割を切り、病院と薬局の敷地内完全禁煙は常識となっている。一方、介護士の喫煙率は4割強であり、介護老人保健施設での敷地内完全禁煙は2割しか実施されていない。この一因として、介護士のタバコによる健康被害の知識不足が影響していると考えられる。タバコは、肺がん以外の疾患にも影響を与えると認識している介護士が極端に少ない（心臓病39.5%、睡眠障害12.6%、認知症16.0%）。これらの知識不足を補うためには、薬剤師会の取り組みのように、介護士も積極的に勉強会やセミナー等を開催し、更には介護士を育成する大学や専門学校においても禁煙・喫煙防止教育を行い、タバコによる健康被害の認知度と喫煙防止への意識を高める事が重要である。今後、保健医療従事者の喫煙率0%を目指し、この調査を継続すると共に、禁煙啓発活動を積極的に行っていきたい。